

ひがしやま こぶん
東山古墳

所在地／西白河郡大字関和久字新田東山

東山古墳は、J R東北線泉崎駅の南東約3 kmの新田東山丘陵にあります。泉崎二小の西側で新田東山団地にあたります。この古墳は東流する泉川の南方約1 kmの地点で、標高約300 m程の東西方向に発達した低丘陵上に営まれました。この丘陵は、古くより古墳群の存在が知られていましたが、泉崎教育委員会が、平成元年4月～6月に亘り調査した結果、この古墳は古墳時代中期（5世紀後半）の前方後円墳であることが明らかとなりました。

またこの前方後円墳は、保存状態がきわめて良好であり、出土遺物も良く、この地域では学問的にもきわめて重要であります。

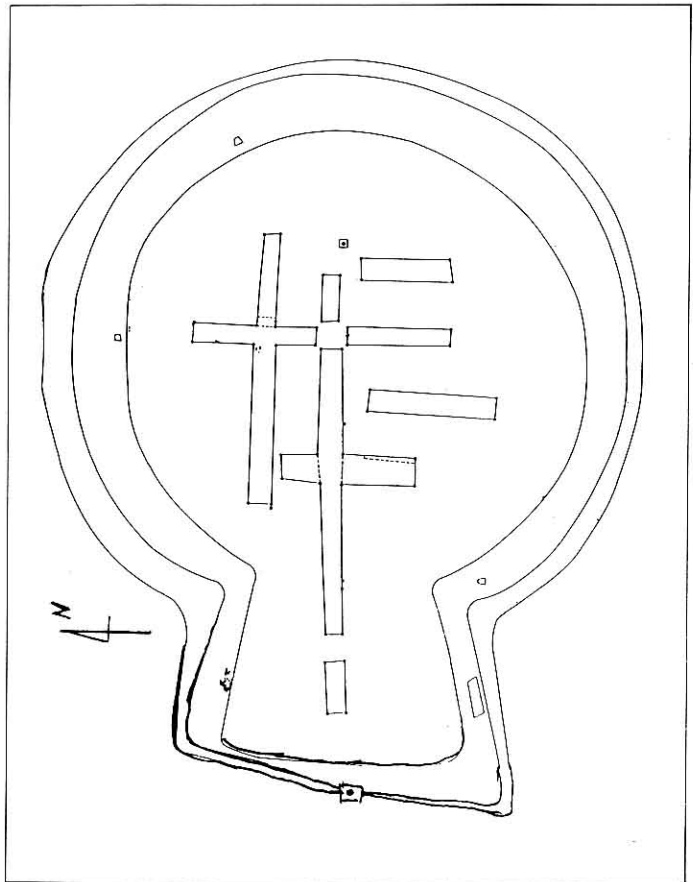
発掘調査では墳丘全体の長さが28 m、前方部8 m、後円部直径20 mの前方後円墳であることがわかりました。しかしこの古墳は前方部の長さが後円部の長さの3分の1よりも短く、前方後円墳の中でも、帆立貝式前方後円墳とよべれます。

墳丘全長は約28 mあるが、幅約5 mの周溝が巡っており周溝も含めての全長は、38 m前後と推定されます。

遺物には周溝から出土した須恵器と土師器があり、これらの製作年代は5世紀後半代と推定されます。



東山古墳の発掘



東山古墳測量図 (1/250)

